

**製品名: UDG ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19603**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	35kDa

**抗原情報**

遺伝子名	UNG
別名	UNG; DGU; UNG1; UNG15; Uracil-DNA glycosylase; UDG
遺伝子 ID	7374.0
SwissProt ID	P13051
免疫原	抗血清はヒト UNG 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 191-240

**背景**

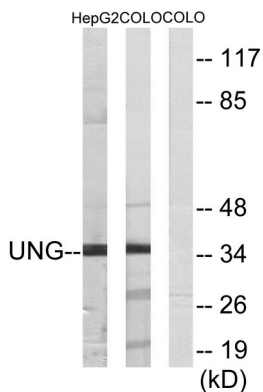
この遺伝子は、数種類のウラシル-DNA グリコシラーゼのうちの1つをコードしています。ウラシル-DNA グリコシラーゼの重要な機能の一つは、DNA 分子から N-グリコシル結合を切断し、塩基除去修復 (BER) 経路を開始することでウラシルを除去することで、変

異誘発を防ぐことです。ウラシル塩基は、シトシンの脱アミノ化または dUMP 残基の誤った取り込みによって生成されます。この遺伝子は、代替プロモーターの使用とスプライシングによって、ミトコンドリア UNG1 と核 UNG2 という 2 つの異なるアイソフォームを生成します。UNG2 という名称は、文献や一部のデータベースにおいてこの遺伝子と混同されていた CCNO 遺伝子 (GeneID 10309) の以前の記号として使用されていました。[RefSeq 提供、2010 年 11 月]、疾患: UNG の欠陥は、高 IgM 型免疫不全症候群 (HIGM5) [MIM:608106] の原因となります。高 IgM 症候群は、血清中の IgM 濃度が正常または上昇する一方で、血清中の IgG、IgA、IgE 濃度が低値または消失を呈する疾患です。HIGM5 は、DNA 切断前段階における免疫グロブリン (Ig) クラススイッチ組換え (CSR) の重大な障害と関連している。機能: DNA ポリメラーゼによる dUMP 残基の誤取り込み、またはシトシンの脱アミノ化によって生じる可能性のあるウラシル残基を DNA から除去する。、オンライン情報: UNG 変異データベース、PTM: アイソフォーム 1 はトランジットペプチドの切断によって処理される。、類似性: ウラシル-DNA グリコシラーゼファミリーに属する。、サブユニット: モノマー。HIV-1 Vpr と相互作用する。、組織特異性: アイソフォーム 1 は広く発現しており、骨格筋、心臓、精巣で最も高い発現を示す。アイソフォーム 2 は増殖細胞を含む組織で最も高い発現を示す。、

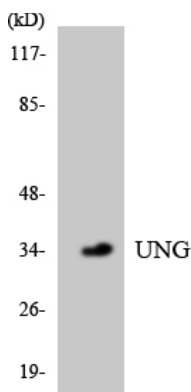
## 研究分野

塩基除去修復、原発性免疫不全症;

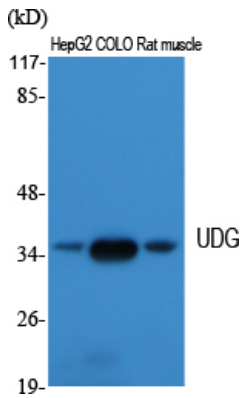
## 画像データ



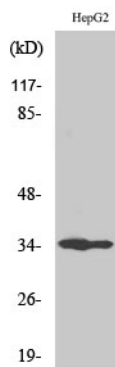
UNG 抗体を用いた HepG2 細胞および COLO 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



UNG 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



UDG ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は1:20000に希釈した。



UDG ポリクローナル抗体を用いた COLO205 細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は1:20000に希釈した。